

提言第8号 救急医療における画像診断に係る死亡事例の分析

事例10

< 事例概要 >

- ・ 80 歳代の患者。腹痛で夜間に救急受診。
- ・ 担当医師の診察時、腹部に圧痛、腸蠕動の低下あり。腹部単純CT 依頼。
- ・ 相談を受けた研修医と 2 名で画像を確認。便貯留があり、閉塞性腸炎の診断で帰宅を指示。帰宅までの間に便失禁あり。翌朝、苦しそうな様子のため再診。再診時のCT で大腸穿孔と診断し画像検査から約 12 時間後に開腹手術を施行するも死亡。
- ・ 死因は下行結腸穿孔による汎発性腹膜炎。死亡時画像診断（Ai） 有、解剖 有。
- ・ 画像診断報告書の有無 不明。
- ・ 初回の腹部単純CT で肝臓前面の遊離ガス像と下行結腸付近の小さなガス像を認めた。